

# 22年度予算の執行状況や 事業実施の適正など 市の家計簿を

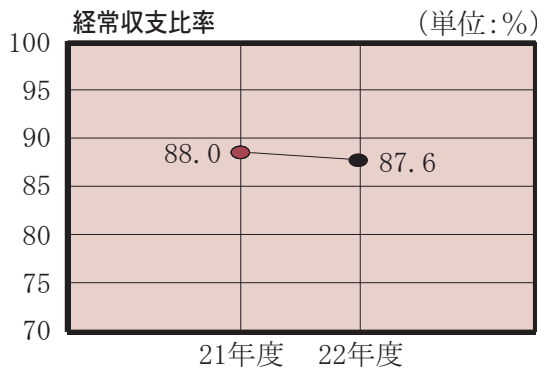
(七宝焼アートヴィレッジの展示室)



七宝焼の社会見学に来た県外からの小学生。しっかりとした  
チェックの姿勢を、市政でも活かしたいものです

## 行

政経営の改善には、計画(PLAN)↓実施(DO)↓評価(CHECK)↓改善(ACTION)の「PDCA」サイクルを回していくことが必要です。決算とは、その中のCの評価にあたり、財政状態を明らかにする作業でもあります。平成22年度の決算審査の結果は、平成24年度予算に反映されることにもなりません。また、下記のグラフは経常収支比率です。市税や普通交付税等の経常的な一般財源収入に対して人件費、扶助費、



公債費等の義務的性格の経常経費の割合をいい、数値が低い方が財政構造に弾力性があります。22年度の経常収支比率は87・6%となり、21年度の88・0%より0・4ポイント改善されました。

## 普通交付税

13億6815万円増加

## 歳

入は、個人市民税が5億467万円の減収。平成20年のリーマンショック以降、景気の低迷に伴い、企業が業績回復のため行った人件費の削減およびリストラなどで平成21年中の個人所得も大きく減少したことが考えられます。また法人所得は低迷していましたが、エコカー補助金な

## 歳

出の主な事業は、歳入でも触れました、生活保護扶助費などの規模の大きい事業を開始したことや、児童手当から子ども

も手当に移行したことなどにより、扶助事業が大きく変動しました。また、木田駅周辺整備・甚目寺駅周辺整備や街路事業(遠島桂線はじめ)など旧町時代に着手したハード事業を引き続き実施し社会基盤の整備を行いました。あま市民病院は、市の地域医療を守ることを使命として良質な医療サービス提供に寄与しました。

# 慎重にチェック

9月定例会は、9月6日から9月29日までの24日間で開かれました。6日には市長の報告や議案の説明が行なわれ、12日、13日と一般質問。その後、一般会計の決算を審議しました。14日には一般会計、特別会計および、企業会計の決算、条例改正、補正予算などを審議し、それぞれ所管の常任委員会でも集中審査。29日最終日に、提案された認定案13件、議案8件は、原案のとおり可決し、総務文教委員会に付託されていた陳情書1件は、賛成少数で不採択となりました。

## 財政の比率

### 基準下回り「健全」

平

成22年度決算に基づく市財政の「健全化判断比率」と「資金不足比率」が報告されました。両比率は毎年度、監査委員の審査に付した上で議会に報告することとされています。健全化判断比率のうち、いずれかの比率が早期健全化基準以上になった場合、市は「財政健全化計画」を策定し、財政の健全化を図ることとなります。市の平成22

年度決算の健全化判断比率は次の表のとおりで、いずれも国が定めた基準を下回っています。

健全化判断比率

比率名	平成22年度	早期健全化基準	比率の内容
実質赤字比率	赤字なし	12.68%	「一般会計等の実質赤字額」の標準財政規模(人口や面積などから算定する国が決める経常一般財源の規模)に対する比率
連結実質赤字比率	赤字なし	17.68%	「公営企業会計を含む全会計の実質赤字額、資金不足額」の標準財政規模に対する比率
実質公債費比率	6.7%	25.0%	「一般会計等が負担する地方債(借入金)の元利償還金など」の標準財政規模に対する比率
将来負担比率	14.7%	350.0%	「借入金や債務負担行為による支出予定額など将来的に支出することが見込まれる額から積立金などの充当可能財源を控除した額」の標準財政規模に対する比率

今

定例会では、一般会計と6つの特別会計に、総額で18億6673万円を追加する補正予算を可決しました。このうち、一般会計には13億1930万円を追加し、予算総額を267億4394万円としました。歳入予算の主な内容は、国民健康保険特別会計はじめ6特別会計から前年度繰出金の確定に伴う繰入金3億2737万円および前年度決算確定に伴う繰越金9億6406万円。(財)

自治総合センターからは、コミュニティ助成事

業として690万円計上しました。歳出の主なものは、外国人住民に係る住民基本台帳システムなどの改修委託料に3675万円となっています。一方、特別会計には国民健康保険に2億3468万円、簡易水道に356万円、市営住宅管理事業に254万円、介護保険に1億1028万円、公共下水道事業に1億1482万円、後期高齢者医療に8153万円をそれぞれ追加しました。(関連質疑を8、9ページに掲載しています。)

